

申20号

「業務用携帯電話および、在来線デジタル列車無線コードレス子機の使用方」に関する申し入れ交渉実施！

組合の主張

- ・乗務員への連絡は、列車無線や鉄道電話が基本でありその補完が携帯電話だ。
 - ・異常時や難聴区間での必要性は否定しないが、電源「入」は乗務員の判断で問題ない。
 - ・これまで「切」で指導してきたのに、なぜ180度転換するのか。乗務中携帯が鳴れば、注意が散漫になり安全を脅かす！
- ⇒常時「入」の根拠があいまいだ！
現行通りの取り扱いで問題ない！

会社提案の主旨

- ・東日本大震災を受け、様々な情報ツールを活用したい。指令や運転当直が緊急で連絡を取りたい場合もある。
 - ・常時電源「入」で、電源「入・切」の煩雑さの解消や入れ忘れ防止ができる。
 - ・乗務中、携帯が鳴ることはまず無い。鳴った場合は、停車して取り扱う。安全を脅かすとは思わない。
- ⇒携帯は常時電源「入」とし、携行してもらう。呼出し音は鳴らす

**携帯電話は列車無線や鉄道電話の補完であることを確認！
しかし会社の主張する常時電源「入」は必要無い！！**

○列車無線難聴区間の対策について

- (会社)・首都圏約1,600kmに難聴対策としてデジタル列車無線を6,7年かけ導入した。
- ・今後は地方にも拡大し全線区導入を目指す。ペースをあげて整備していく。

⇒難聴区間解消に向けペースをあげてデジタル無線を整備することを確認！

○異常時における車外作業の安全確保について

- (会社)・大前提は抑止することだ。2次災害はあってはならない。これまでもあらゆる対策を打ってきているが、今後も指導していく。
- ・携帯用の防護無線子機などの要求については、現場の声を聞き、必要があれば検討する。

⇒乗務員に委ねるようなフローでいいのか？今後も色々な場で議論が必要！

○長野・仙台で実施されている人身事故時の「110番通報」について

- (会社)・警察の要請に基づき実施している。初動の連絡は「乗務員⇒指令⇒警察」であるが、発生場所の特定が困難な場合は、警察から依頼を受け指令から運転士に指示して「110番通報」してもらう。乗務員からの発動ではない。
- ・当社社員が早期に駆けつけられるよう、体制は引き続き検討していく。

⇒事故発生直後、乗務員の負担をいかに減らすかが重要！継続して検討を要請！

安全・安定輸送確保と乗務員の安全を守り抜こう！